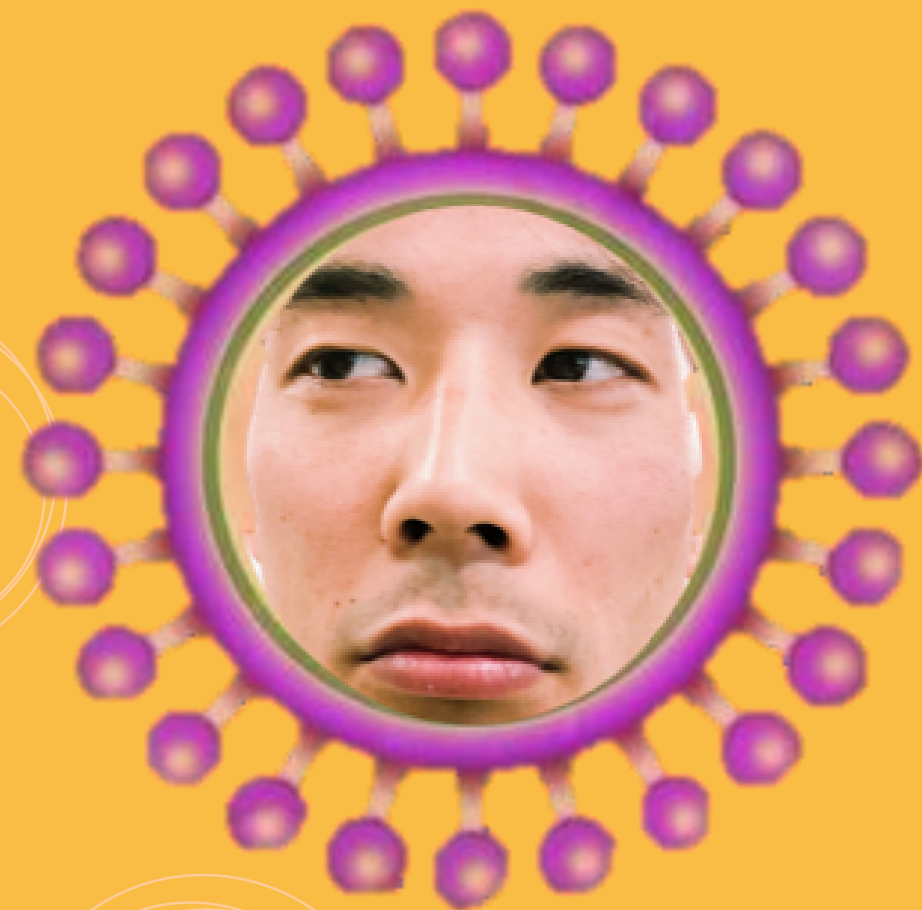


マッコの 知らない世界

△
周辺市街地の



都市計画史班

谷野今飛 川又豪士 有水瑛美 担当教員:松原康介

江原輝 柏原義央 柴田明日香 TA:橋本涼汰

はじめに

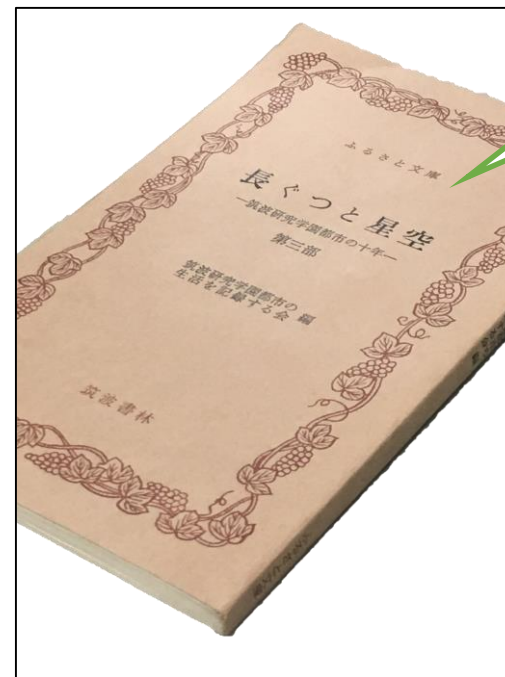
50年前・・・



駅までの移動は

人力車

だったよ…



The農村地域

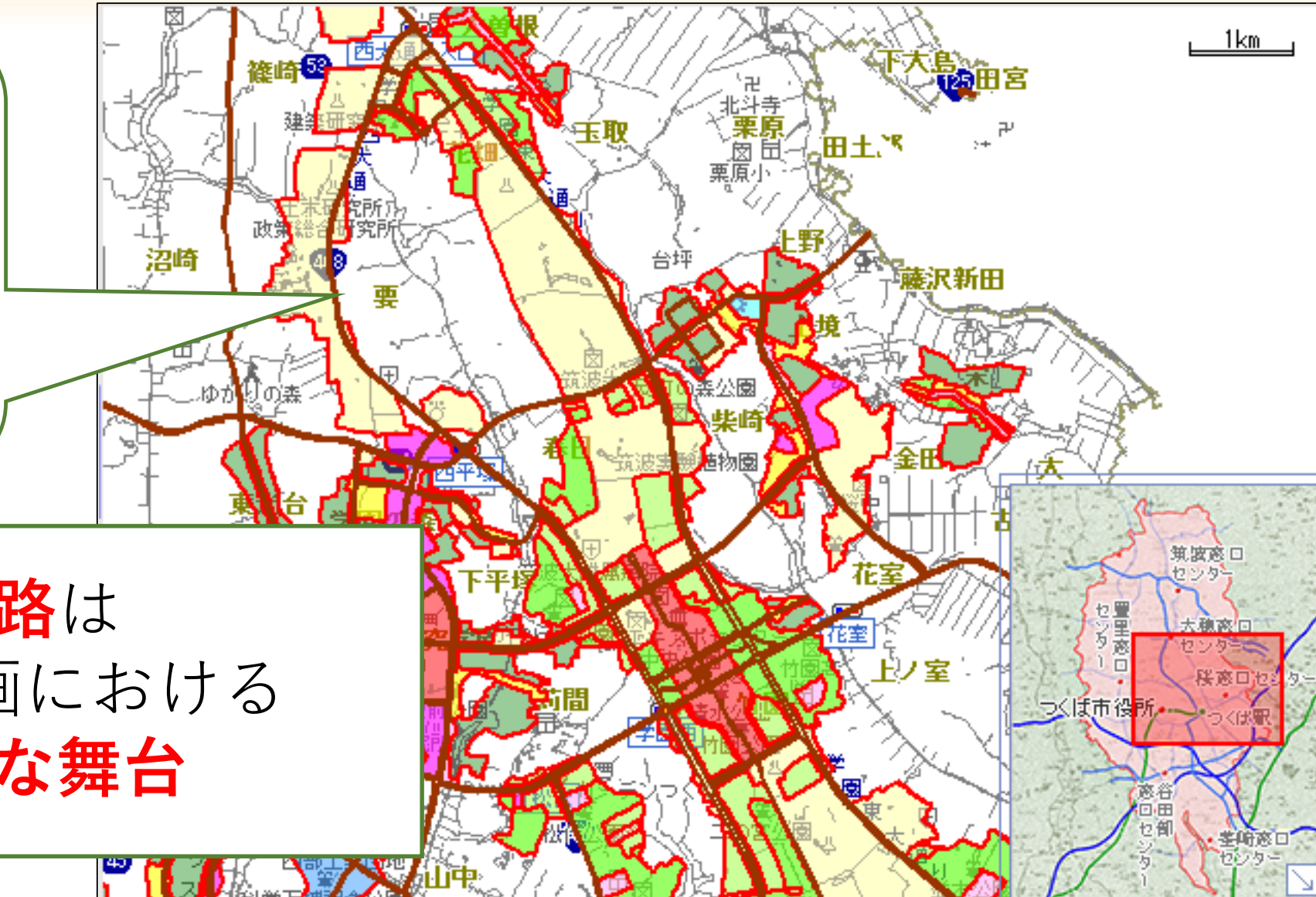
はじめに

つくば市
都市計画マップ

研究施設を
取り囲む

幹線道路

道路は
都市計画における
重要な舞台



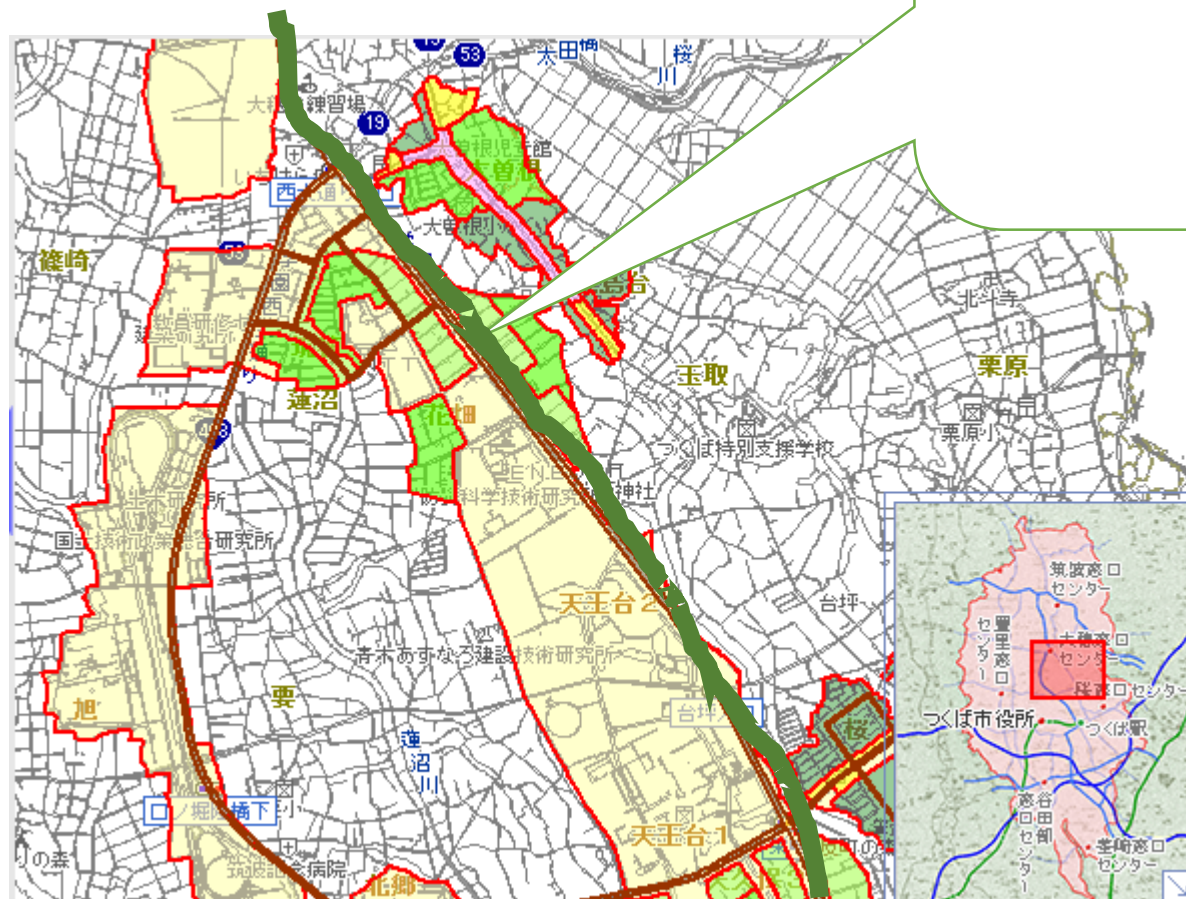
地図で比較！



背景と目的

学園東大通り

1977年に完成
学園西大通りとともに
主要な幹線道路に



学園東大通りを
中心に
地図を観察...



背景と目的



おお **ぞ** ね
大曽根

という地域を発見

学園東大通り

> 国道128号線

幅員・車線数・交通量

大曽根は学園東大通りの「**陰**」になってしまった？

背景と目的

パリ（オスマンの改造）における 表と裏の逆転



新しく作られる大通り(ブールヴァール)と、その裏側の旧市街地

背景と目的



パリ改造前（左）と後（右）の同地点からの写真

表向き

パリ
「世界の首都」

発展

裏側

旧市街地
「無秩序に破壊」

放置

東大通りと大曽根
との関係に似ている？

背景と目的



大曽根の
現状はどうなっ
ているのだろう...?

どういう経緯で
こうなった
のだろう...?



市役所の見る大曽根現状

市役所から見た現状
(大曽根市街地カルテより)

大穂地区の**43%**が大曽根に食料品を買いに、
40%が日用品を買いに来ている。

→これは大穂地区への客ではなく、

花畑地区への客であると考えられる

市役所は大曽根地区という昔の地名を
使って花畑地区を表している。



大曽根 基礎データ

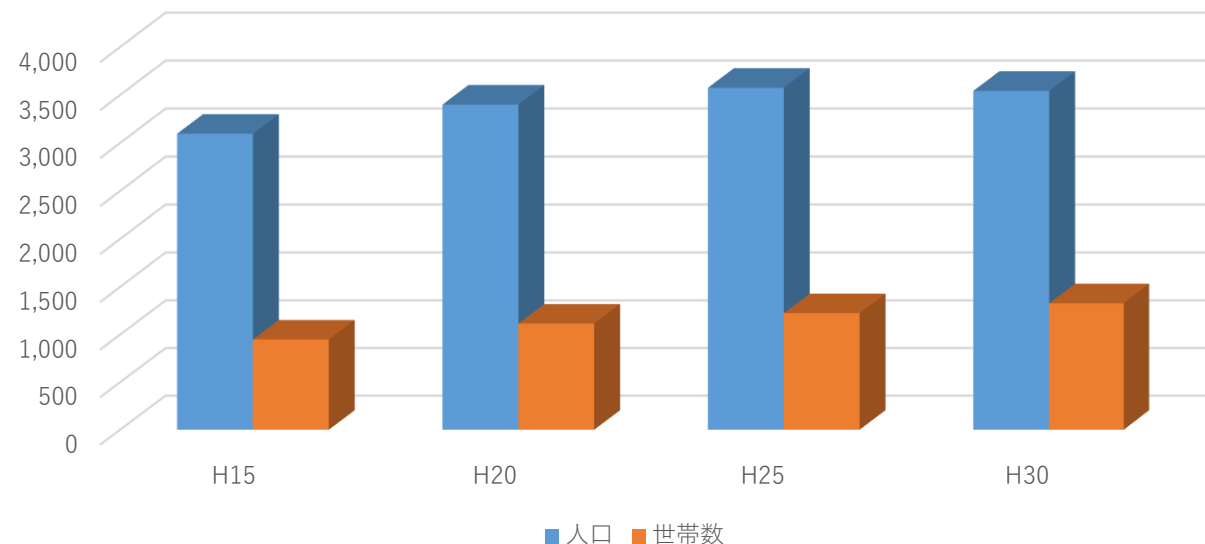


古くからの街道である県道128号線(土浦大曽根線)沿いに形成された市街地

自然豊かで、筑波山の自然景観に恵まれている

近年では、子育て世帯の入居も増えてきている

人口・世帯数の推移



大曽根という町

- 研究学園都市計画以前、

大曽根は大穂地域の中心
行政、教育、経済の中心が集まる

平安末期より続く
歴史のある集落



↑大穂の行政範囲と大曽根の位置

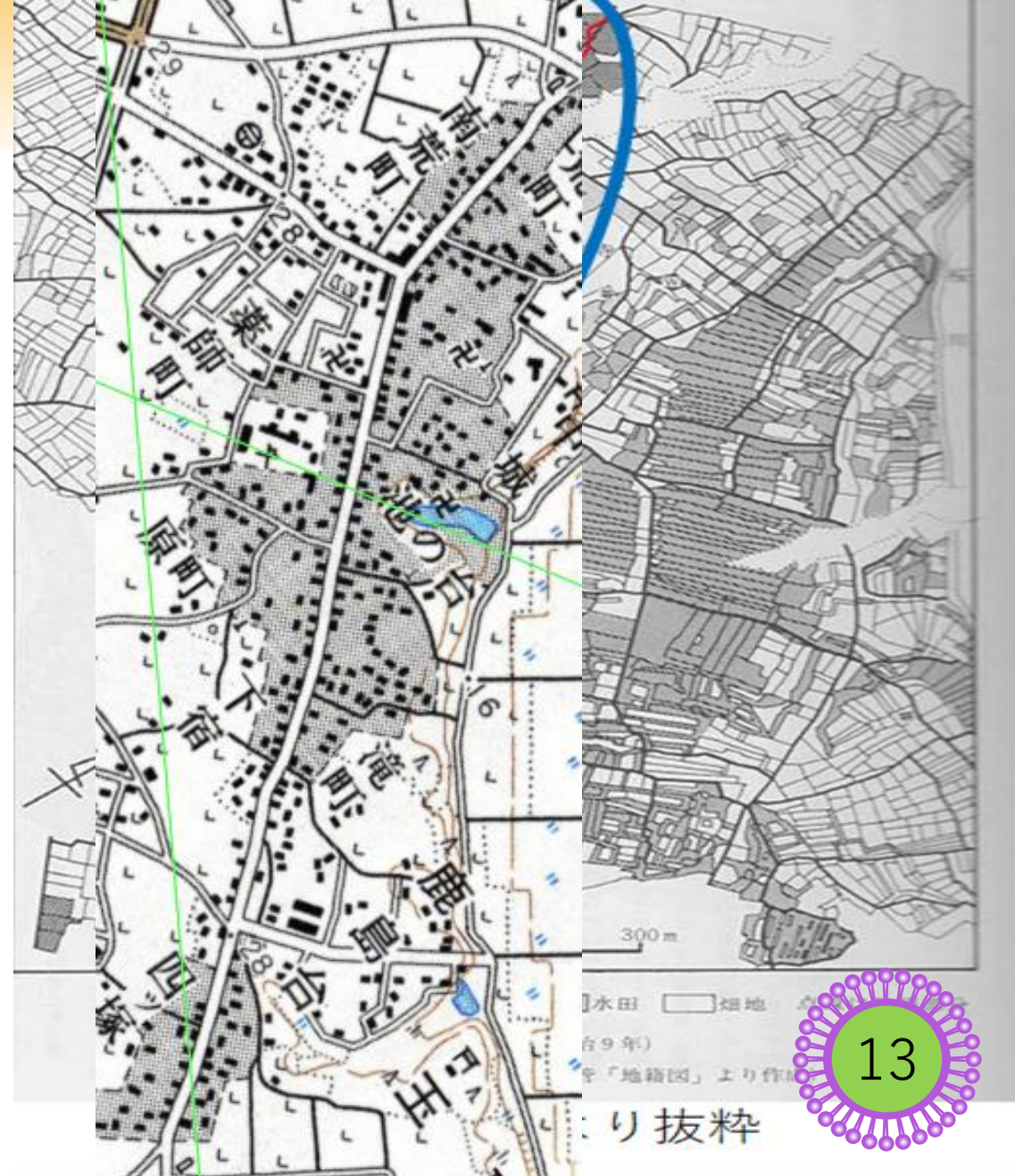
大曽根の街路形態

- 街村

主要道路に沿って民家が密集して並立
商業集落に該当する
住民の街路への依存度が高い。

主要道路を中心とした市場町

定期市では木綿、雑穀などが売買された



大曽根に住んでいた人々

- 農家
- 自然、神仏の信仰

かつて神社は22社、寺院は5寺存在していた
千光寺、常福寺、鹿島神社など現在でも存在

→祭り、神仏行事における交流の場



↑農家の人々（大曽根雑記より）



↑千光寺



↑鹿島神社

大曽根における新旧住民の分断

- 若衆制度（江戸時代～昭和の戦時中まで）

- 若衆＝村の神仏行事を運営をする役職

家の家長となる男子は20歳になると加入する。

しかし、、、

移住者は若衆には入れない

現代（現地調査より）

公民館における
旧住民のコミュニティ

しかし、、、

新住民の参加は見られない

新住民、旧住民の分断の歴史

地図からの道路分析（1960年）

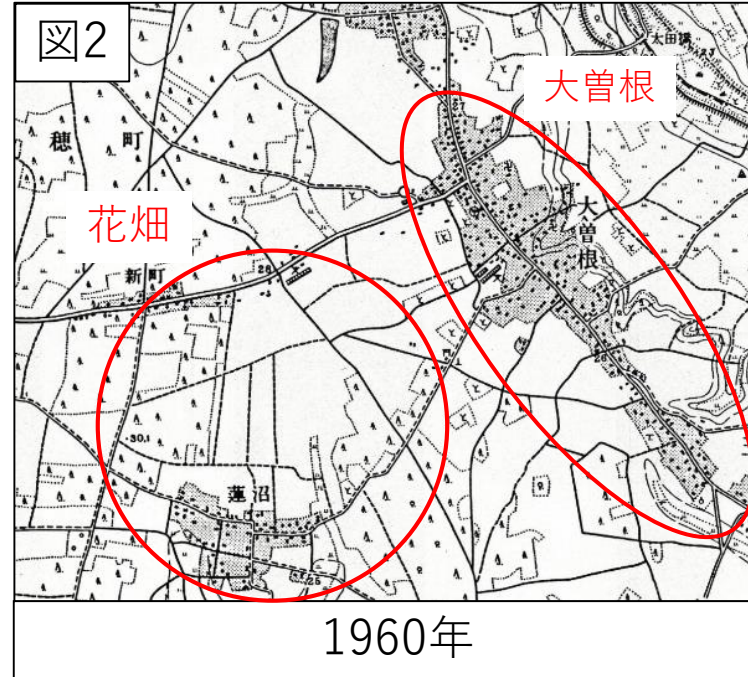
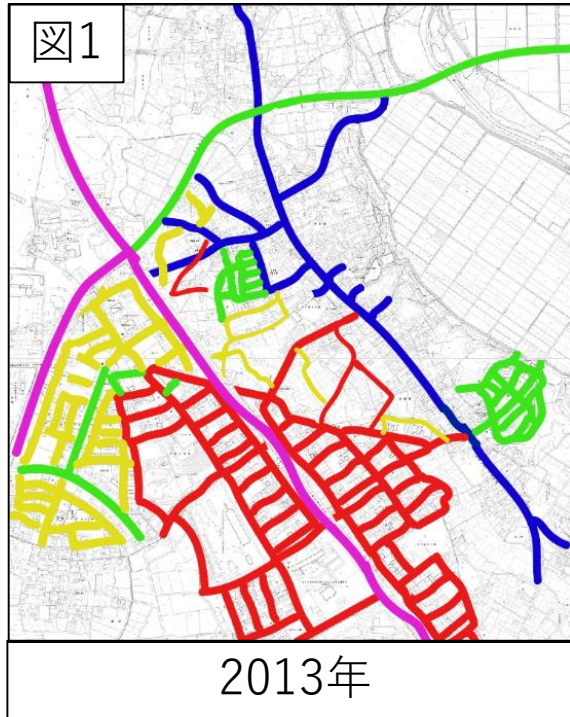


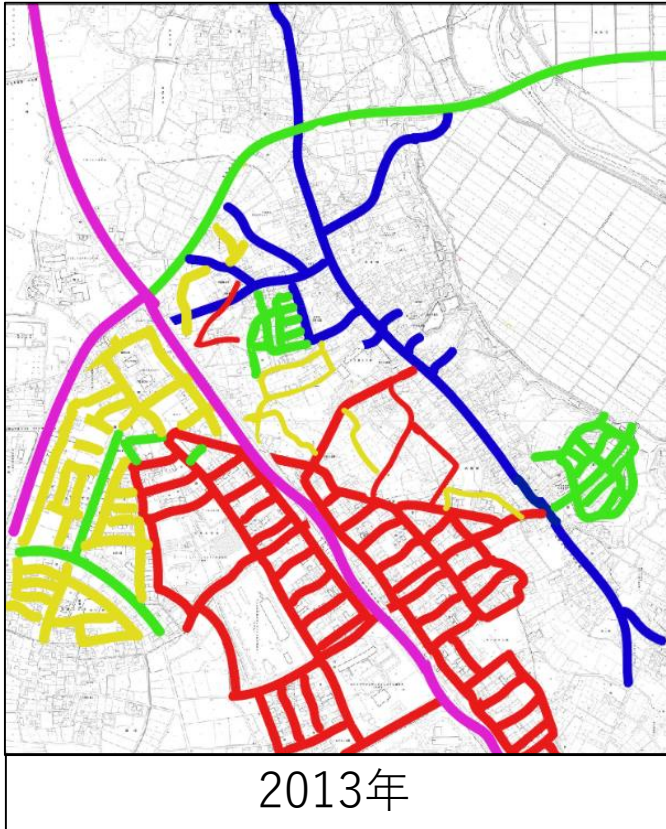
図1は現在の地図(2013)の道路がいつ頃作られたか色分けしたものの

青	～1960年まで
赤	1960～1977年まで
緑	1977～1995年まで
黄	1995～2013年まで
紫	東・西大通り (1960～1977年まで)

○1960年の地図に記載されている道路で現在も使用されているものは大曾根内部を通る
大曾根土浦線と大曾根地区内の一部（青線部）

○現在の東大通、西大通周辺の多くは雑木林となっている。

地図からの道路分析 (1977年)



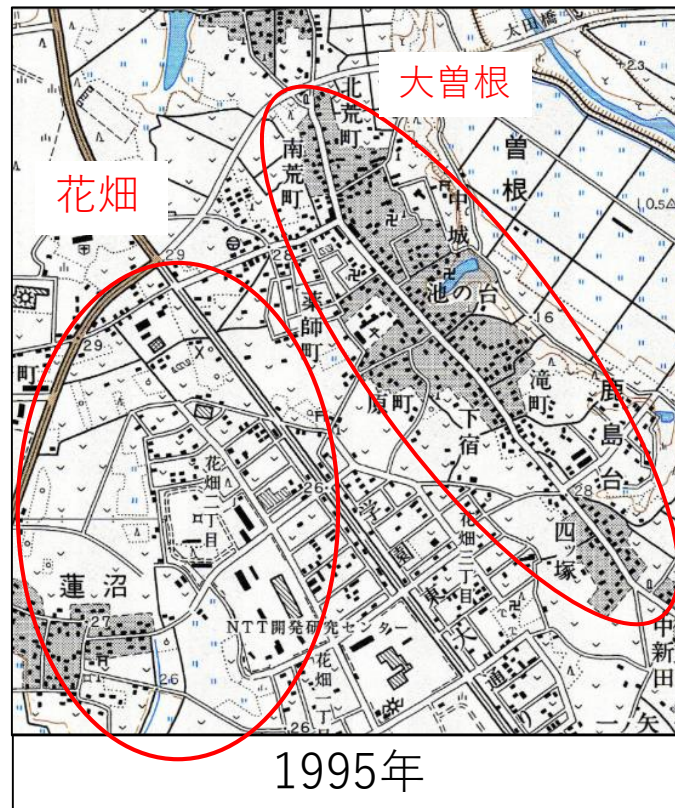
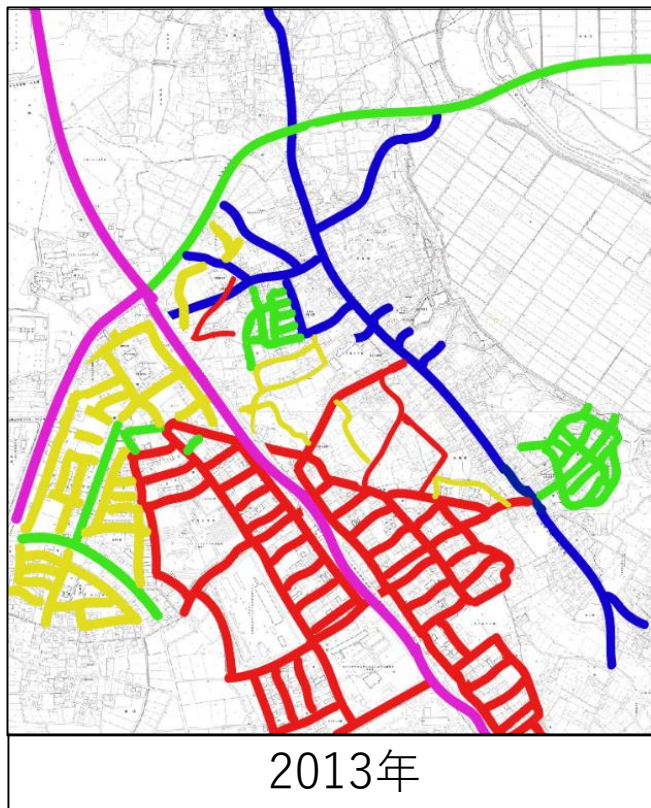
○東・西大通り（紫線）が成立

○研究学園都市計画にみられる近隣住区論に基づいたまちづくり（赤線）がみられる。

○東大通側の花畑周辺から開発



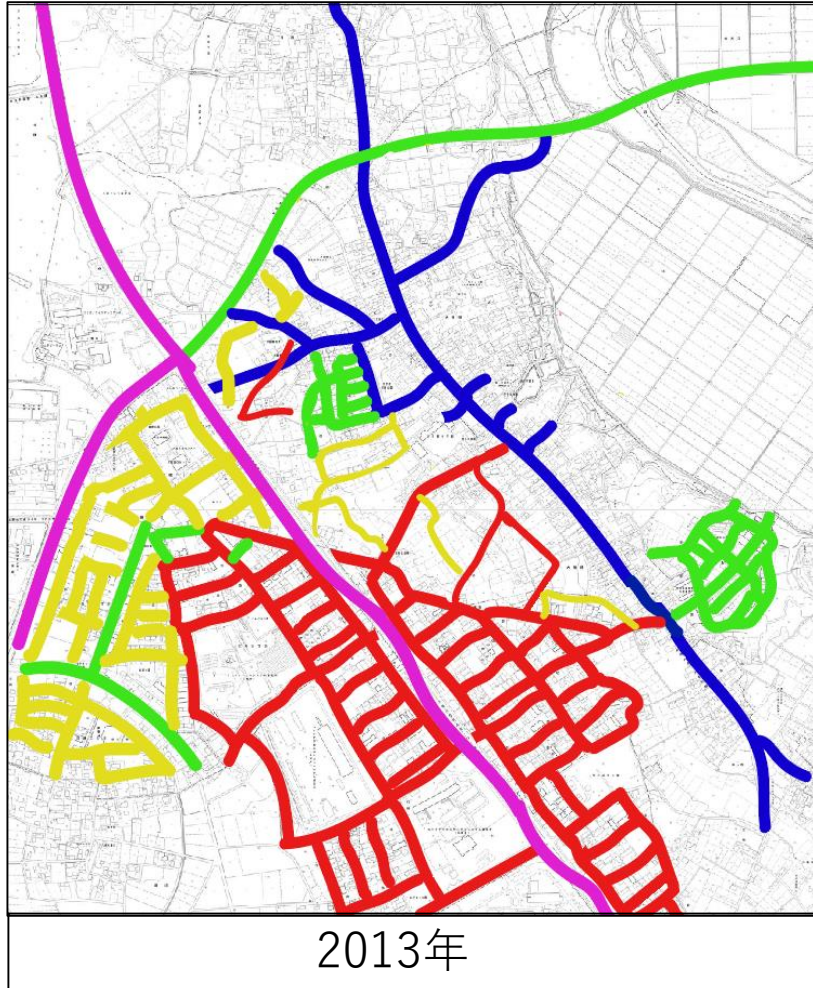
旧市街地の蓮沼地区があり西大通り側の開発は市街地の土地買収等が必要であり、難しかったからだと思われる。



○大曾根地区において、市の計画によって薬師地域、鹿島台地域の開発（緑線）がおこなわれた。

○東・西大通りの内側の西大通り側の開発が始まっており、この頃ようやく蓮沼地区開発の算段がついたのではないかと

地図からの道路分析 (2013年)



○東・西大通り内の開発（黄線）が完了している。

○スーパーや飲食店等ができていることもわかる。

○大曽根地区と開発地区をつなぐ道路が増やされているが、現地を歩いた感想としては足りないのではないかといった印象を受ける。

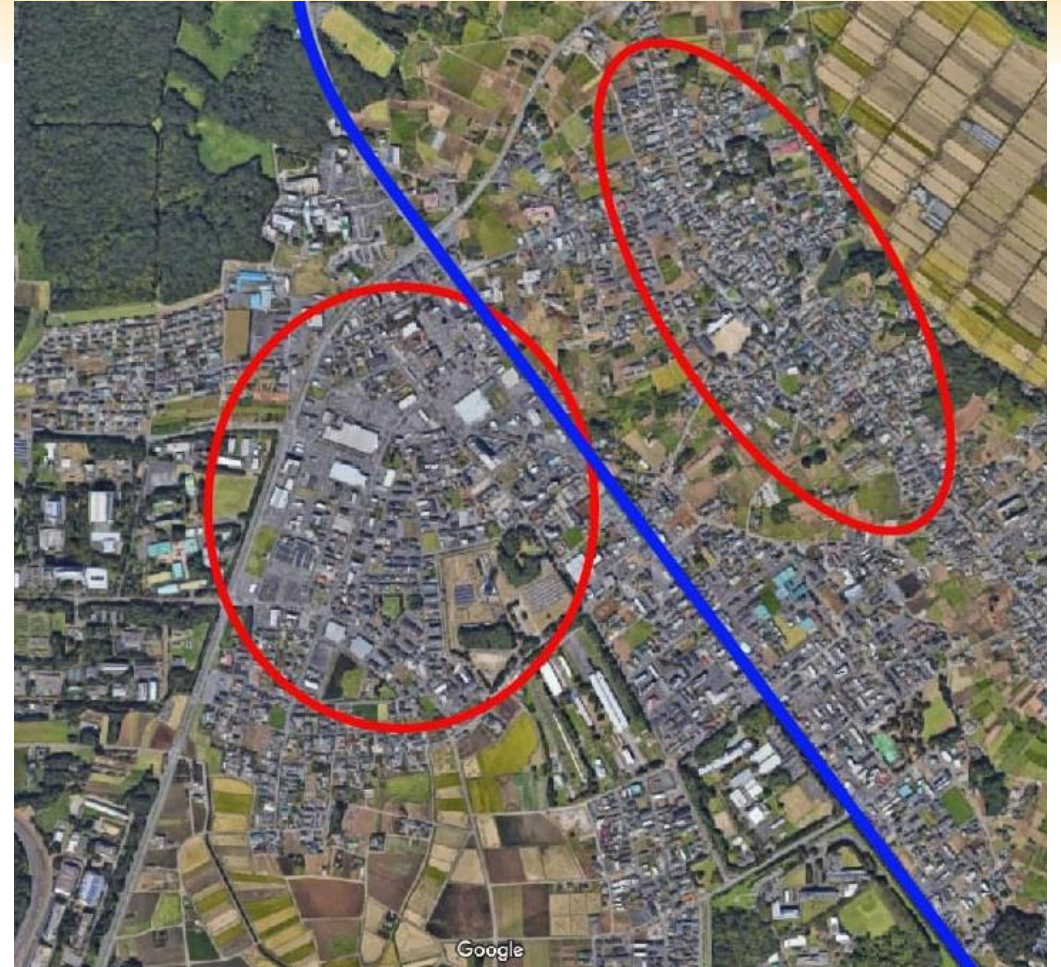
大曽根と花畑

昔からある大曽根地区の東大通りを挟んですぐ隣には、近隣住区論的な特徴をもつ新しい花畑地区がある。

ヒアリングから、大曽根地区の人の生活インフラは花畑にある



大曽根の「町」の問題点を新しいまち花畑と比較しながら近隣住区論の観点から見てみる



ヒアリングから分かる現在の大曽根

- 商店街が衰退していった(店舗数70→3)
- 花畑地区との関わりがない
- 買い物は主にカスミ大穂店(花畑)
- 移動はほぼ車
- 車があり、バス停も遠く本数も少ないため、つくバスはあまり使わない
- 車があるから交通の不便は感じない

→将来、免許返納した時も不便は感じないのか？

近隣住区論の 6 原則

- ①**規模**：小学校区
- ②**境界**：幹線道路
- ③**オープンスペース**：公園や緑地
- ④**公共施設用地**：中央部か公共用地の周囲に設ける
- ⑤**店舗地区**：1 か所以上
- ⑥**内部街路体系**：住区内幹線道路を設け、通過交通を排除する

小学校

大曽根小学校1校のみ



小学校：考察

- ・ 大曾根小学校1校に大曾根、花畑、その他周辺の子供たちが通っている
- ・ 平均4クラスあり、バランスはいい
- ・ 本来ならば花畑地区に学校があるはず



無理やり交流を狙った？

幹線道路

花畑



大曽根



幹線道路：考察

- 花畑地区は東大通りと西大通りの囲まれるような街の作りになっている



通過交通は少ないと考えられる

- 大曽根地区は大通りに沿って集落が形成されているため、集落の中を道路が縦断する形になっている



通過交通が多いと考えられる

公園

花畑



大曽根



公園：考察

- ・花畑に集中している
- ・大曽根地区限定でみるとオープンスペースが多いとは言えない
- ・ヒアリングからも子供たちが気軽に遊べる公園がほしいという声が挙がった



地域の老若男女が交流できるようなレクリエーション施設の数に
差があるのではないか

公共施設

花畑



大曽根



公共施設：考察

- ・花畑地区の旧大穂中学校の場所に集まる
- ・大曾根の人が公共施設を利用するためには、東大通りを超えなくてはならない
- ・ヒアリングからも不便だという声が挙がった



施設の位置はまとまっているが、東大通りが通行の邪魔になっているのではないか

病院

花畑



大曽根



病院：考察

- ・花畑地区に集まる
- ・大曽根地区にあるのは歯科医院で利用が限定的
- ・ヒアリングより、車のない高齢者から不便だという声が挙がった



地区別にみると医療能力に差があるのではないか



商業施設

花畑



大曽根



商業施設：考察

- 大曾根には、牛乳屋や洋品店などの専門店が点在しているが、それらだけでは日常生活には不十分
- 十分な商品を得るためには花畑へ行く必要がある



これも車に依存している生活の1つの要因ではないか

家の形

花畑



大曽根



家の形：考察

- ・ 大曽根地区では昔ながらの家が多くみられる
- ・ 大曽根地区の家は一户当たりの敷地が非常に大きい
- ・ 花畑地区では新しいモデルハウスのような家が多くみられる

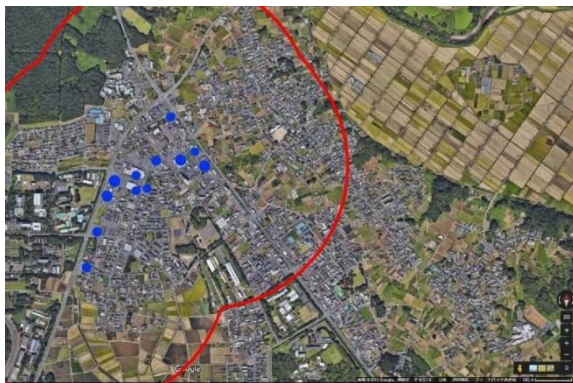


花畑地区に移り住んできた人が多いと考えられる

市役所を見る大曽根現状：施設の分布

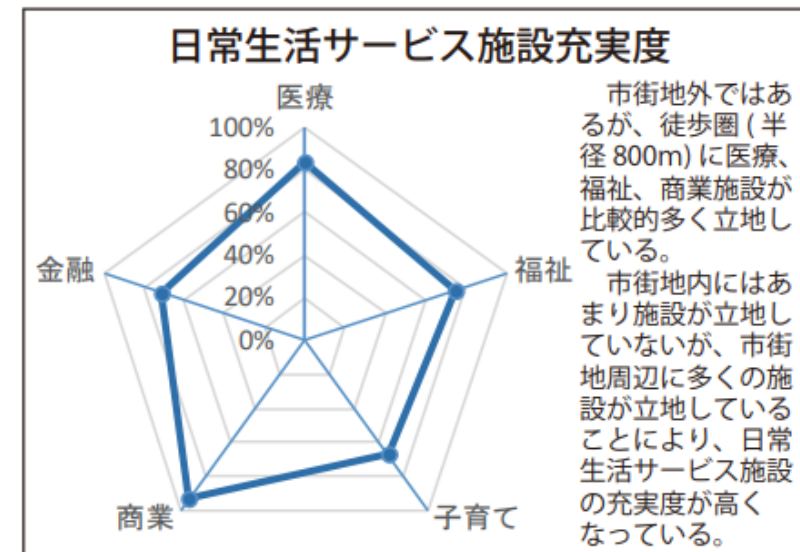
大曽根市街地カルテ

商業施設や医療機関において半径800mを徒歩圏とし、日常生活サービス施設充実度が高い



充実度は本当に高いの！？

→徒歩圏が半径800m以内に住む、すべての人が不自由ない生活ができているのか



徒歩圏について

徒歩圏は半径800mが適切なのか？

1

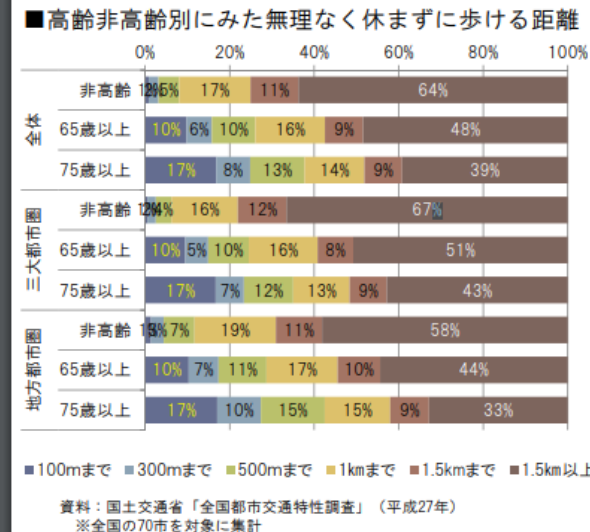
○国土交通省の調査によると、75歳以上高齢者の半分近くが無理なく休まずに歩ける距離は800mと答え、半分以上の方は辛いと答えている。

2

○過去の論文より、徒歩圏については半径400mと設定しているものが多く、つくば市の設定する半径800mは大きいといえる。

3

○徒歩圏は幹線道路のよって分断されるということも分かっているため、東大通りを挟む大曾根と花畑を一括りに考えることはできない。

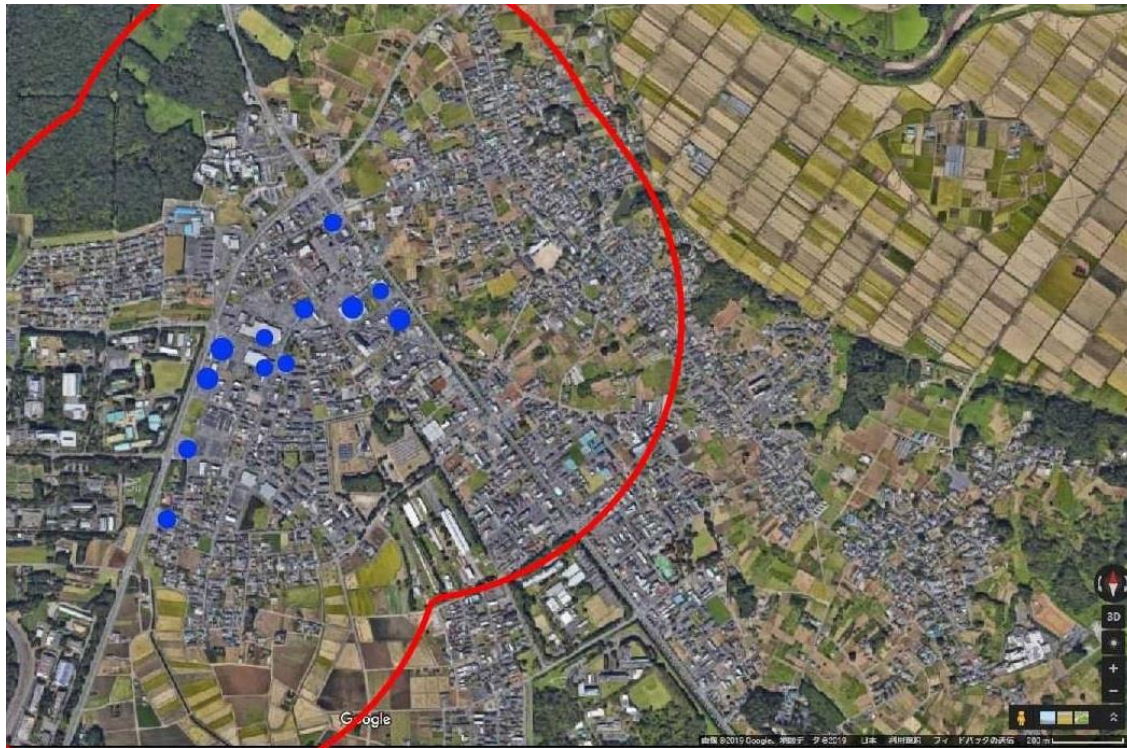


出典：国土交通省「全国都市交通特性調査」

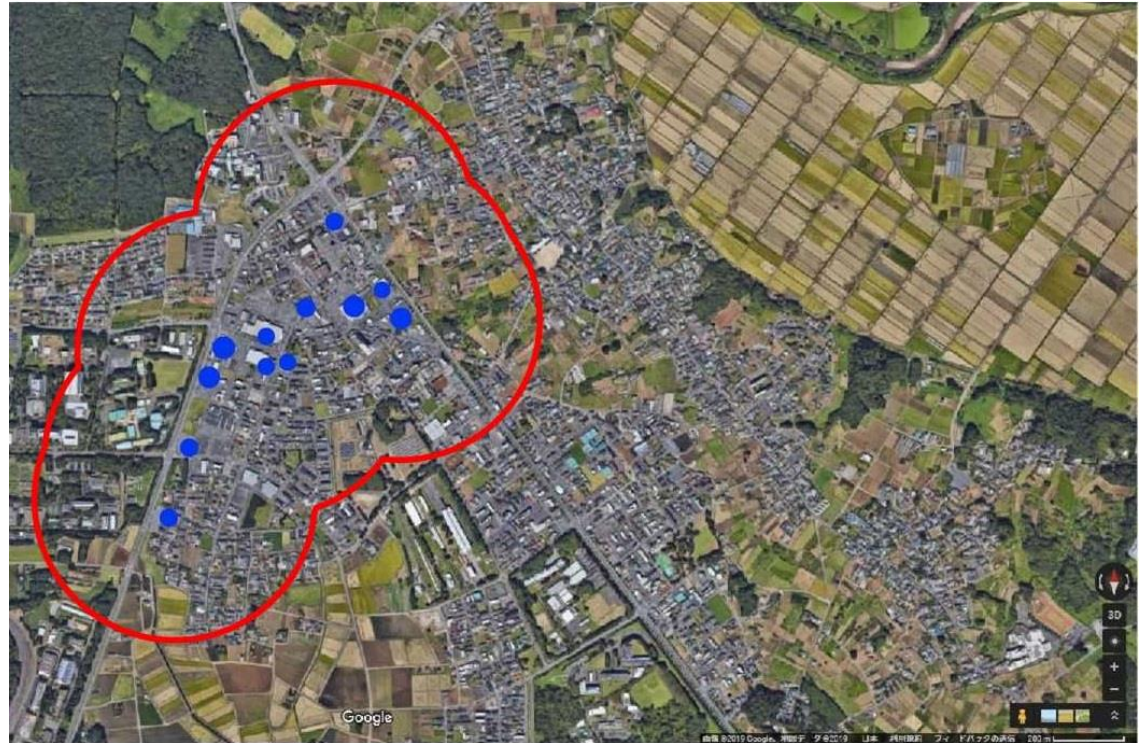
私たちはそれらを考慮して大曾根地区、花畑地区
それぞれに徒歩圏400mを設定して詳しく見てみる

商業施設

800m

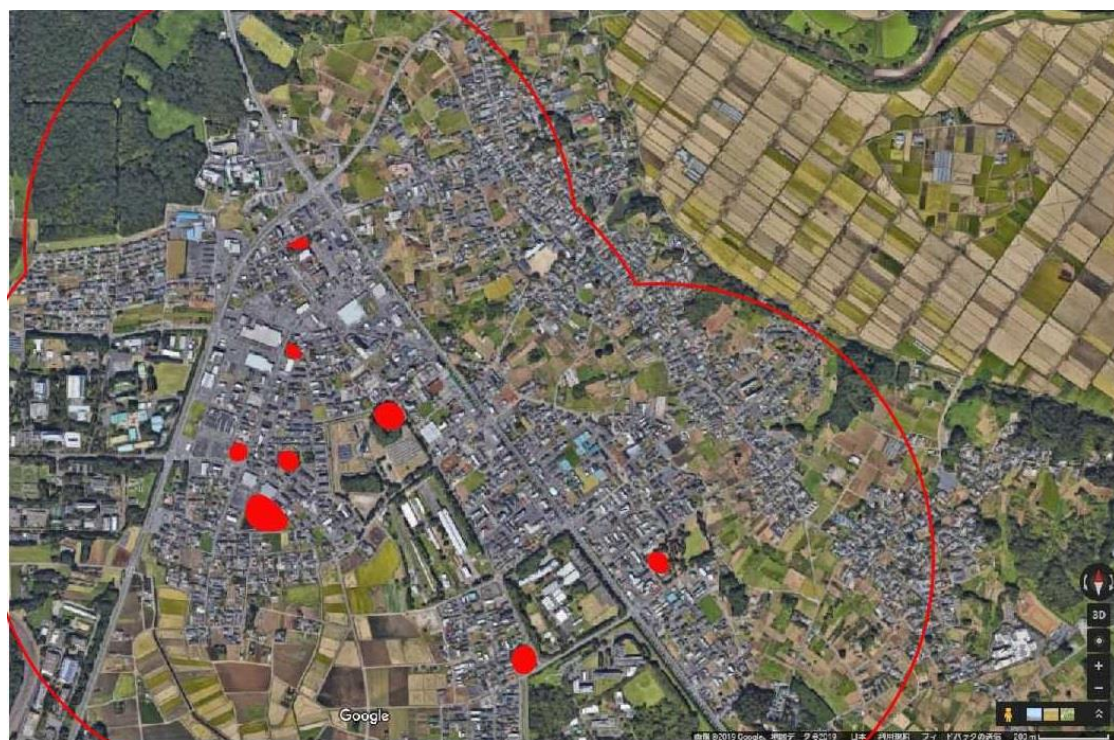


400m

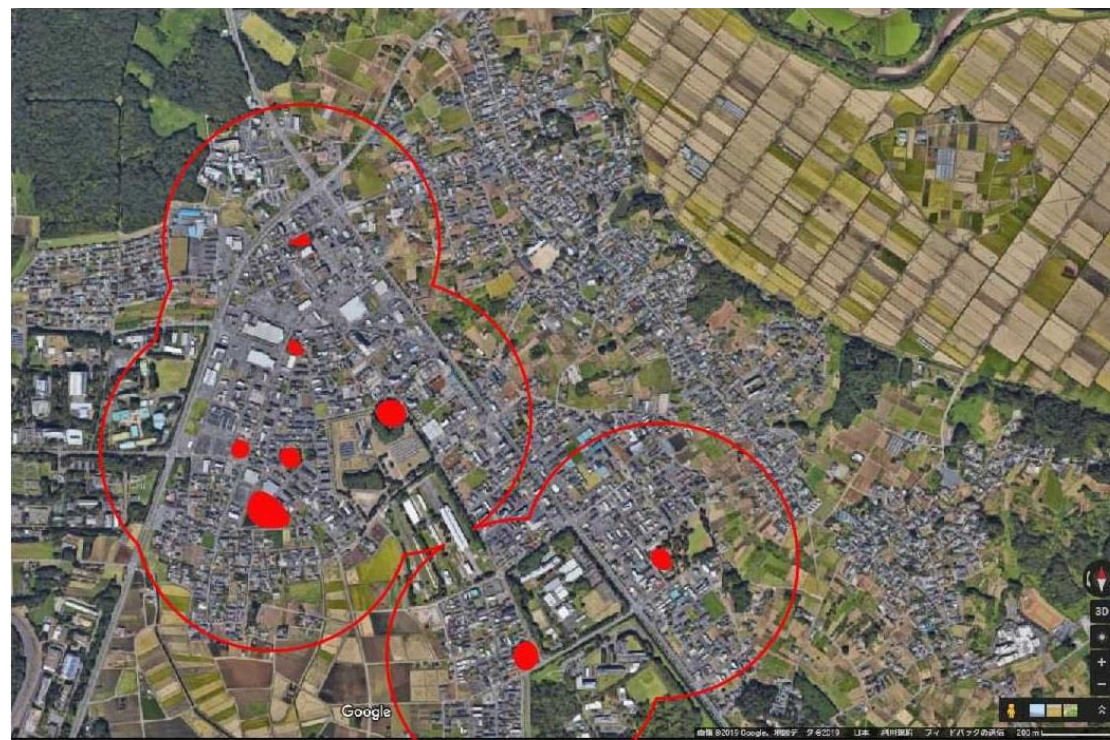


公園

800m

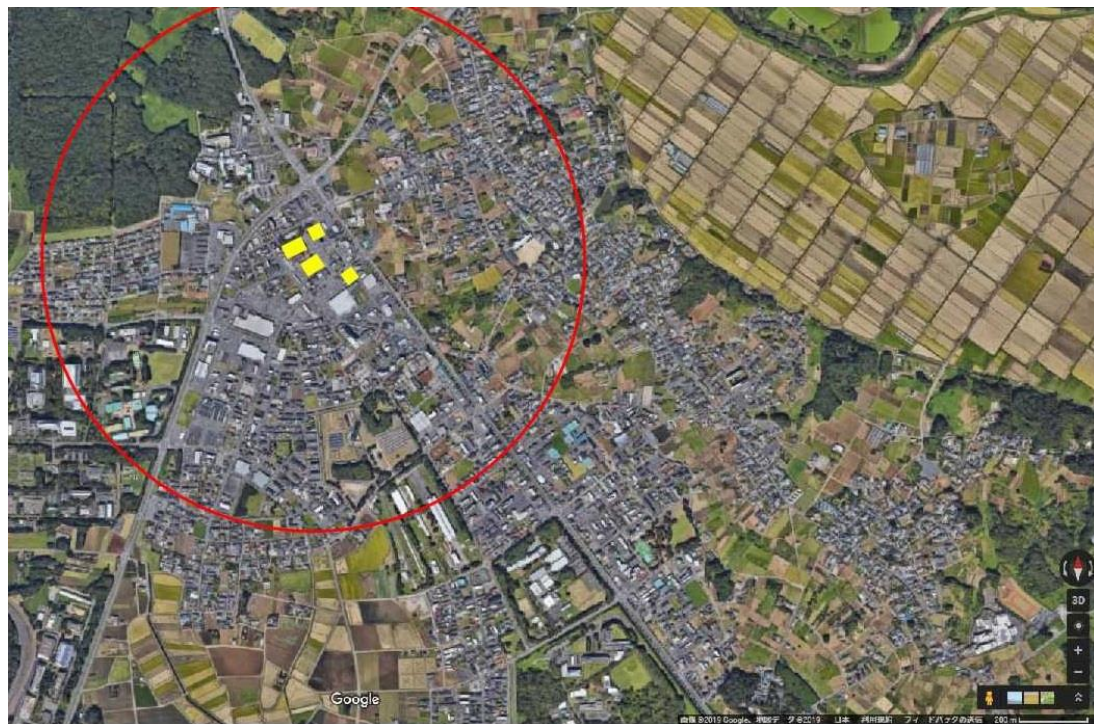


400m

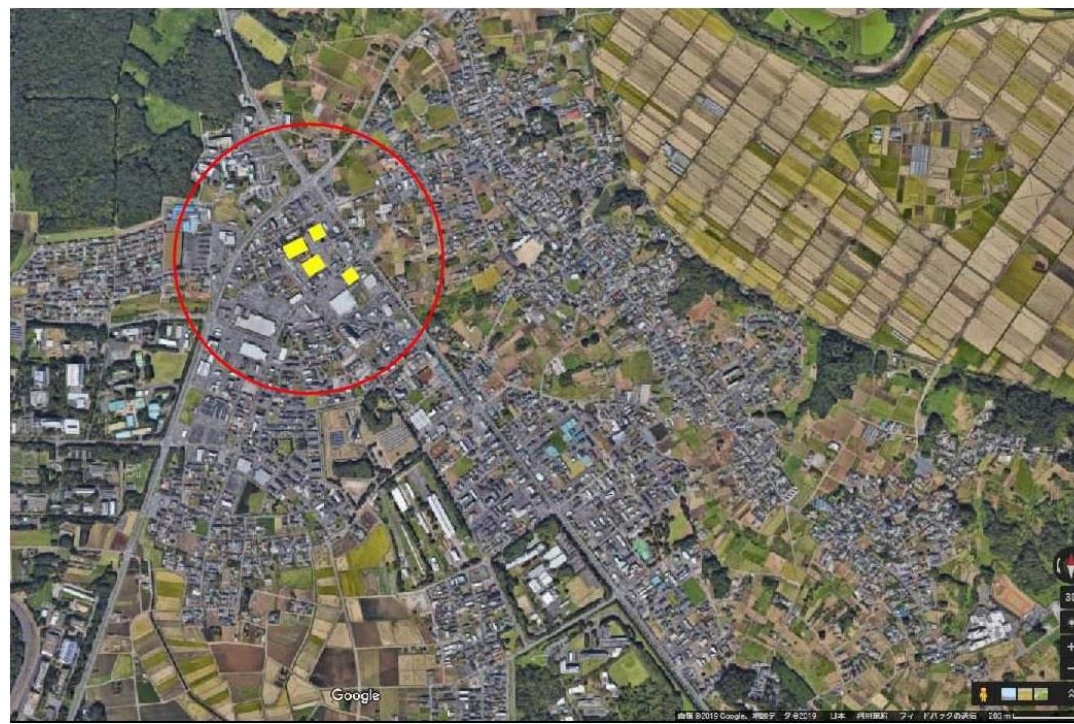


公共施設

800m

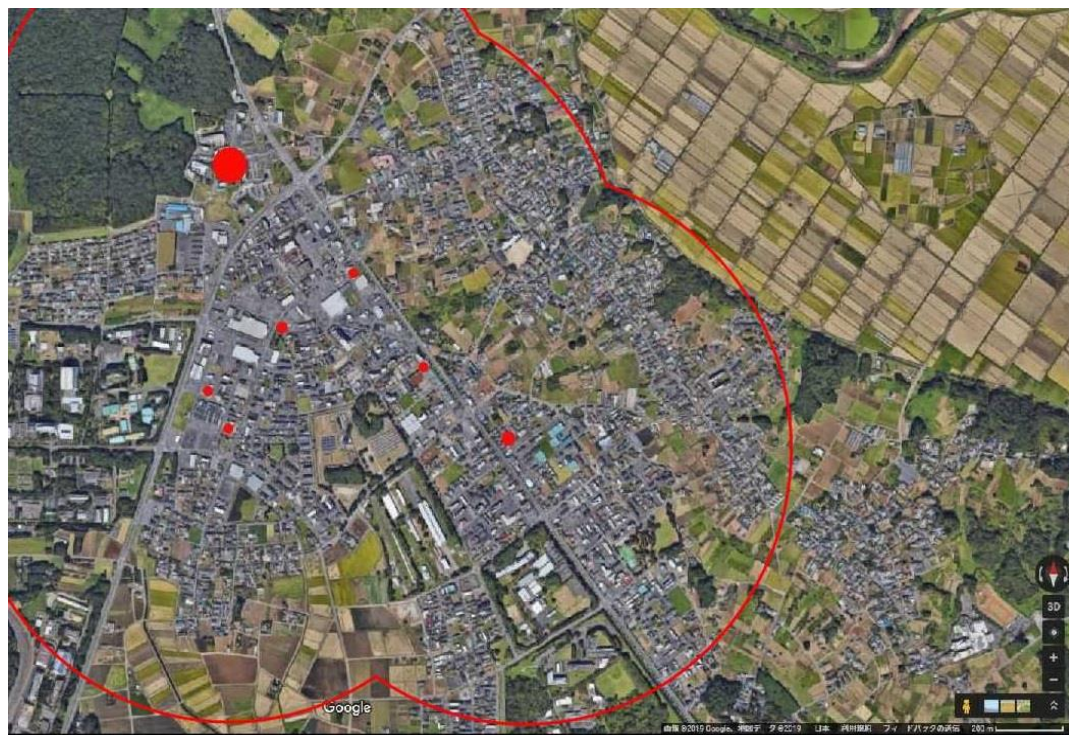


400m

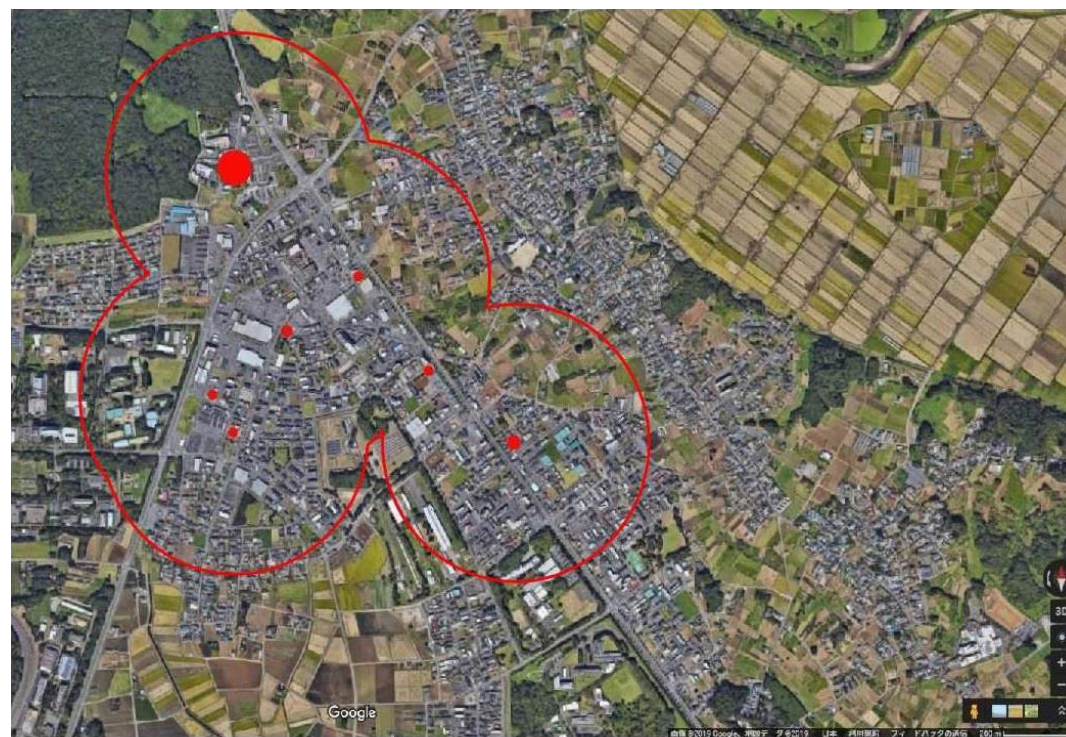


病院

800m

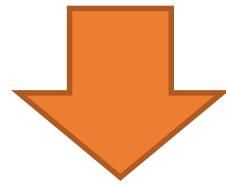


400m



徒歩圏についての考察

大曽根地区は、市役所の設定する徒歩圏800メートル以内にはおおまか納まっているが、徒歩圏400mに設定するとカバー率は低くなる



車を持たない人や免許を返納した高齢者にとって、花畑にある各施設は大曽根地区にとって利便性が低いと考えられる。

まとめ・考察

花畑は近隣住区論にのっとったまちづくりがなされている。

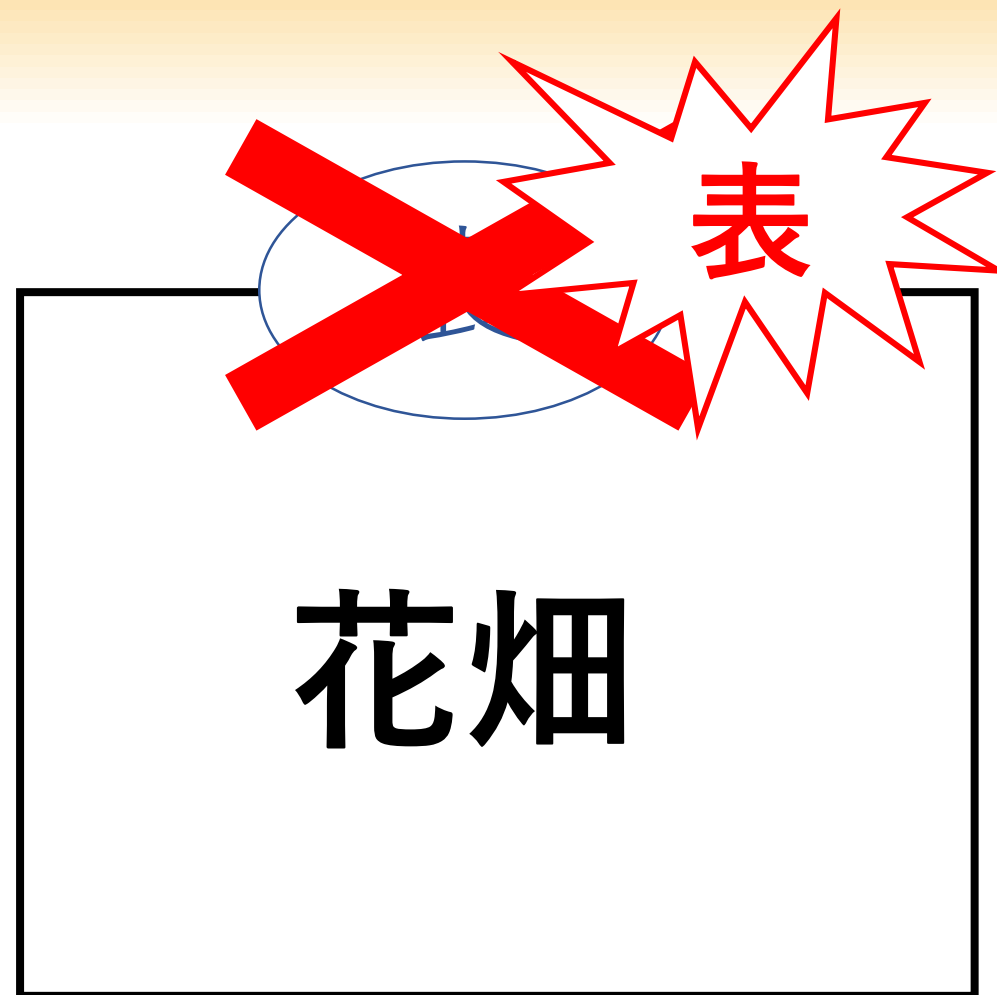
一方...

大曽根地区は昔ながらの集落の形が残りながらも、
町の機能を満たす施設が不足



都市開発の有無で地域格差がみられる。

まとめ・考察



今後の大規模都市計画において

開発地域周辺の旧市街地に目を向けることも
重要になっていくのでは？

参考文献

李召熙:高齢者の居住分布と生活サービス施設への接近性.2012.2

http://gis.sk.tsukuba.ac.jp/2009-12_GIS-SA/20120218/lee.pdf

谷 明良:徒歩圏分断の計量的把握に関する基礎的考察. 1977.11

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscej1969/1977/267/1977_267_89/_pdf/-char/ja

金炅漢,小林裕司,姫野由香,金俊榮,佐藤誠治:生活利便性から見た住宅団地の持続可能性.2011.5

https://www.jstage.jst.go.jp/article/aija/76/663/76_663_939/_pdf/-char/ja

海道清信:人口密度指標を用いた都市の生活環境評価に関する研究.2001

https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/36/0/36_421/_pdf/-char/ja

国土交通省:高齢者の生活・外出特性について

<http://www.mlit.go.jp/common/001176318.pdf>

常陽新聞社:つくば報道 続 筑波研究学園都市概成20周年記念.2001

謝辞

つくば市都市計画部市街地振興課周辺市街地振興室の皆様
大曽根地区でのヒヤリング調査にご協力していただいた皆様

調査にご協力いただきありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました

学級編制の仕組みと運用について(義務)

○学級編制の標準

<小・中学校>		
同学年の児童で編制する学級	小学校	中学校
	35人(1年生) 40人(2～6年生)	40人
複式学級(2個学年)	16人 (1年生を含む場合8人)	8人
特別支援学級	8人	8人
<特別支援学校(小・中学部)>		
	6人(重複障害 3人)	

《参考》
○小学校設置基準(文部科学省令)
(一学級の児童数)
第四条 一学級の児童数は、法令に特別の定めがある場合を除き、四十人以下とする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。

(学級の編制)
第五条 小学校の学級は、同学年の児童で編制するものとする。ただし、特別の事情があるときは、数学年の児童を一学級に編制することができる。

○学級編制の考え方

原則として、学級は同学年の児童生徒で編制するもの。ただし、児童生徒数が著しく少ないか、その他特別の事情がある場合においては、数学年の児童生徒を1学級に編制することができる。
学級編制の標準は、1学級あたりの人数の上限を示したもの。

したがって、各学年ごとの児童生徒数を標準の人数で除して得た数(1未満の端数切り上げ)が当該学年の学級数になる。

(例) 35人の学年 → 1学級 [35人]
65人の学年 → 2学級 [32人、33人]
122人の学年 → 4学級 [30人、30人、31人、31人]



- ◎ 1年生：114人 ◎ 2年生：110人
- ◎ 3年生：111人 ◎ 4年生：116人
- ◎ 5年生：107人 ◎ 6年生：102人
- ◎ 特別支援学級：16人(内数)

大曽根の高齢者の割合

■ 人口・世帯数の推移（平成30年10月時点）

世帯数は増加していますが、人口は平成20年以降ほぼ横ばいとなっています。年少人口と高齢人口の割合に近い点が特徴的です

項目\年次		平成15年	平成20年	平成25年	平成30年
人口(人)		3,095	3,399	3,574	3,542
年齢 階層別 (人)	年少	483	564	641	569
	生産 年齢	1,960	2,147	2,209	2,162
	高齢	652	688	724	807
世帯数(世帯)		948	1,115	1,224	1,328

大曽根市街地カルテより

平成30年の
大曽根の高齢者割合は

**4 人に 1 人は
高齢者**

大曽根の高齢者の割合

■ 人口・世帯数の推移（平成30年10月時点）

世帯数は増加していますが、人口は平成20年以降
ほぼ横ばいとなっています。年少人口と高齢人口の
割合に近い点が特徴的です

項目\年次		平成15年	平成20年	平成25年	平成30年
人口(人)		3,095	3,399	3,574	3,542
年齢 階層別 (人)	年少	483	564	641	569
	生産 年齢	1,960	2,147	2,209	2,162
	高齢	652	688	724	807
世帯数(世帯)		948	1,115	1,224	1,328

大曽根市街地カルテより